

芸術科(美術)における生徒の「主体性」を引き出す授業づくりに向けたリーフレット

「主体性」を引き出す授業づくりをする上での課題

- 完成した作品を評価することが多く、完成までの過程で表出する資質・能力を評価することが難しい。評価の観点では「創造的な技能」の評価に偏りがちであり、生徒も作品の出来ばえにばかりを注目しがちである。
- 作品を完成させることだけを目標にするのではなく、生徒が主体的に課題を発見し、問題解決を図ることができるようにするためには、指導者がアイデアスケッチや構想を練る段階に形成的評価を行いながら、授業改善をすすめる必要がある。
- 【観点別評価について】これまで生徒の成果物を見取るパフォーマンス評価を中心に行ってきた美術、工芸科では、4観点から3観点に変わったことのみによる課題はない。ただし、それぞれの観点をバランスよく見取れているか、見取る評価材料が真に見取るべき内容を表出しているか、改めて検証が必要である。



ポイント

観点	評価の考え方	美術、工芸科として何を評価するか
知識 技能	学習の過程を通じた知識及び技能の習得状況について評価をする。 既習の知識及び技能と関連付けたり活用したりする中で、他の学習や生活の場面でも活用できる程度に概念等を理解したり、技能を習得したりしているかを評価する。	<ul style="list-style-type: none"> ●造形的な見方を豊かにする知識 ●創造的に表す技能
思考 ・ 判断 ・ 表現	知識及び技能を活用して課題を解決する等のために必要な思考力、判断力、表現力等を身に付けているかどうか評価する。	<ul style="list-style-type: none"> ●発想や構想に関する資質・能力 ●鑑賞に関する資質・能力
主体的 に学習 に取り組む 態度	知識及び技能を獲得したり、思考力、判断力、表現力等を身に付けたりするために、自らの学習状況を把握し、学習の進め方について試行錯誤するなど自らの学習を調整しながら学ぼうとしているかどうかという意思的な側面を評価する。	<ul style="list-style-type: none"> ●自らの学習状況を把握し、自己調整しながら、粘り強く取り組もうとする態度。

それぞれの観点をバランスよく見取る

上記課題を解決するために必要だと考えられること

- 題材に入る前に評価の計画を考え、形成的評価と総括的評価を指導の計画に位置付け、明確にしておくこと。
→完成作品のみに注目するのではなく、生徒がどのように主体的に取り組み、何について考えたか、思考にどのような量・質の変化がおり、作品にどのように生かされたか、制作の過程であられる資質・能力を指導者がしっかり見取れる。
- 完成作品の出来ばえだけでなく、思考の過程を見取るための判断基準であるルーブリック表（評価ABC）を事前に作成し、生徒とも共有すること。
→その題材で何について考え、何ができるようになったらよいのかを指導者と生徒が明確に理解でき、作品の出来ばえばかりにとらわれることなく、主体的に取り組める。
- 目標を達成するために効果的に働くワークシートを作成すること。特に何について考えたらよいのか分かるように問いを工夫すること。
→制作における技能面ばかりでなく、問題解決にむけての思考の過程も大切にできる。

美術室

形成的評価はタイミングが大事。その後の制作に影響することがないようなら、意味がないなあ。

作品を完成させることだけが目的ではない。何を考えたか。その課題の解決のために、どうしたか、問題解決の過程も大事。

形成的評価と総括的評価が曖昧なままだと、評価するものが多すぎて、評価疲れをおこしそう。

美術教育は「美術の教育」ではなく、「美術を通じた教育」であることを再認識しよう。

課題解決に向けた具体的な実践例

ポイント

作品の仕上がりに大きく影響するアイデアスケッチをここで見取り、目標に達していない評価Cの生徒に**本制作に入る前に積極的にアドバイス**する。



ポイント

目標の実現状況を見取れる材料は何か、形成的評価と総括的評価を明確に位置づけて、記録に残す評価を精選している。そのため、3、4時では、記録に残す評価はせず、形成的に評価し、指導することに集中している。

ポイント

プレゼンシートで制作を振り返り、何を考え、どのように解決したのか、自分の思考の変化と制作の過程についてしっかり振り返る機会を設ける。

ポイント

相互鑑賞によって、他者の見方・考え方から新しい気づきにつなげる。

芸術

●府立高校 1年生の実践事例

◎題材における指導と評価の計画 (全8時間)

●…形成的評価、○…総括的評価

時	主な学習活動	評価の観点			評価規準・評価方法
		知	思	主	
1 ・ 2	1、構想 ・題材を理解し、自分と向き合い、感じ取ったことや考えたことから主題を生成し、アイデアを多角的に数多く出し、創造的に構想を練る ・様々な取扱説明書を調べて参考にする。 ・現代での視覚的・直観的な情報伝達の重要性を理解する。 2、ブラッシュアップ ・教師の助言を受け、構想を練り直し、思考を深める。	○1	○1	○1	[知①] (アイデアスケッチ) ・課題を正しく理解して、表現している。 [主①] (アイデアスケッチ・観察) ・アイデアを多角的に数多く出し、創造的な工夫や推敲を重ね主体的に取り組もうとしている。 [思①] (アイデアスケッチ・観察) ・課題に適した表現の工夫 (情報を視覚化する・ユニバーサルデザイン・隠喩的表現など) をおこなっている。 [主②] (アイデアスケッチ・観察) ・教師の助言を生かし、課題の理解を深め、アイデアをブラッシュアップして質を高めようとしている。
3	作品の下描き・着 省略	●2	●2	●3	[主③] (観察) ・計画的に制作を進めようとしている。
7 ・ 8	5、作品完成 6、ワークシート (プレゼン) 記入 ・ワークシートで自分の活動を客観的に振り返り、プレゼンシートでは自分の作品を言語化して表現する。 7、相互鑑賞シート	○5 ○6	○3 ○4	○5	[知⑤] (作品) ・内容にあったレタリングを使って、効果的に工夫して表現している。 [知⑥] [思③] (作品) ・形や色彩、構成など、造形の要素の働きを理解して作品を制作している。・形や色彩、構成など、主題を表すために創造的に構想を練っている。 [思④] (作品) ・情報を視覚化している。 [主⑤] (作品・観察) ・作品を完成させるため粘り強く主体的に取り組もうとしている。 [主⑥・思⑤] (ワークシート) ・振り返りシートで自分の活動を客観的に振り返り、自分の作品を言語化して表現している。 [思⑥] (ワークシート) ・作品の内容や良さを感じ、意図や表現の工夫などを考えている。

見取りたい内容が表出するような問いの工夫

ワークシートの工夫例 1

「わたしのトリセツ」相互鑑賞レポート 1年()組()番名前()

1. 周りの人の作品を2人以上鑑賞してください。お互い作品を交換して、お互いに記入してください。
2. ①～④について記入してください。
3. 2で記入した内容を作者に見てもらい、感想を書いてください。



ポイント

他者の見方・考え方も参考にして新しい視点で自分の作品を捉えなおす機会を設ける。

私の感想 1人目: 1年()組()番()さんのトリセツ 鑑賞レポート

- ① 良かった点
- ② 自分の作品に取り入れたい点
- ③ 改善点、こうすればより良くなる点
- ④ 感想



作者の感想 作者()さん: 私の感想を読んだ作者の感想

(振り返りシートより抜粋)

質問3: 相互鑑賞した後、自分の作品を改めて見て、もっと良くするにはどうしたらいいと思いますか。

ポイント

右の「学びに向かう力、人間性等」に関する目標の達成度合いを測るために、有効な問いを設定する。

「わたしのトリセツ」評価の具体例

【学びに向かう力、人間性等に関する題材の目標】

- ① 相互鑑賞レポートで、主体的に他者の作品の内容や良さを感じ取り、作者の意図や表現の工夫などについて考える鑑賞の創造活動に取り組むこと。
- ② 振り返りシートで自分の活動を客観的に振り返り、自分の作品を言語化して表現すること。

「主体的に学習に取り組む態度」のひとつの評価規準
振り返りシートで自分の活動を客観的に振り返り、自分の作品を言語化して表現しようとしている。

判断基準

↓目標の達成度合いをどうはかるか(ものさし)

A	B	C
振り返りシートで自分の活動を客観的に振り返り、自分の作品を言語化して表現しようとしている。 <u>さらに、他者の作品から良さを見取り、自分へフィードバックするように取り組んでいる。</u>	振り返りシートで自分の活動を客観的に振り返り、自分の作品を言語化して表現している。	Bを満たしていない。

芸術
美術

ワークシートの工夫例2

「わたしのトリセツ」振り返りシート 1年()組()番 名前()

I、【 振り返りシート 】 ★印はa～dで答える (a)上出来 (b)まあまあ (c)もう少し (d)まったく

1、課題理解・取り組み (知・技/思・判・表/主)

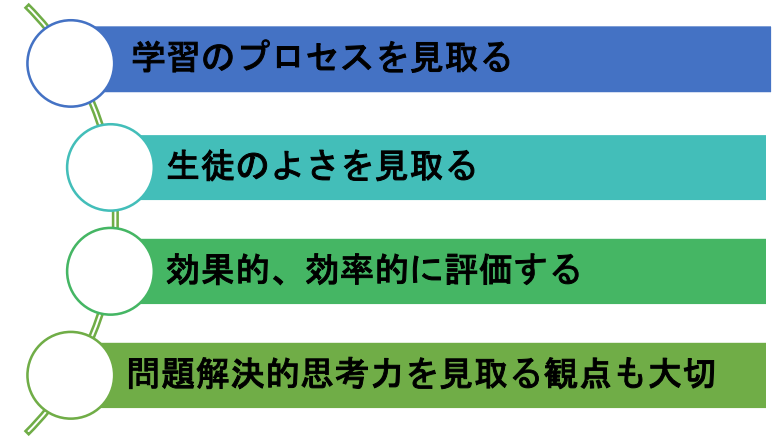
- ★① 課題を理解できましたか? []
- ★② 自己紹介ではなく、取り扱い説明書として制作できましたか? []
- ★③ 情報を視覚化して表現できましたか? []
- ★④ 文字情報に頼らない、ユニバーサルデザインを意識した表現ができましたか? []
- ★⑤ 比喻表現や隠喩表現を使って表現できましたか? []
- ★⑥ レタリングを内容に合わせて効果的に表現できましたか? []
- ★⑦ 前半で学習した色の特性を上手く使い、内容に合った効果的な表現ができましたか? []
- ★⑧ 自主的に取扱説明書を調べたり、資料を集めるなど準備ができましたか? []
- ★⑨ よい作品ができましたか? []



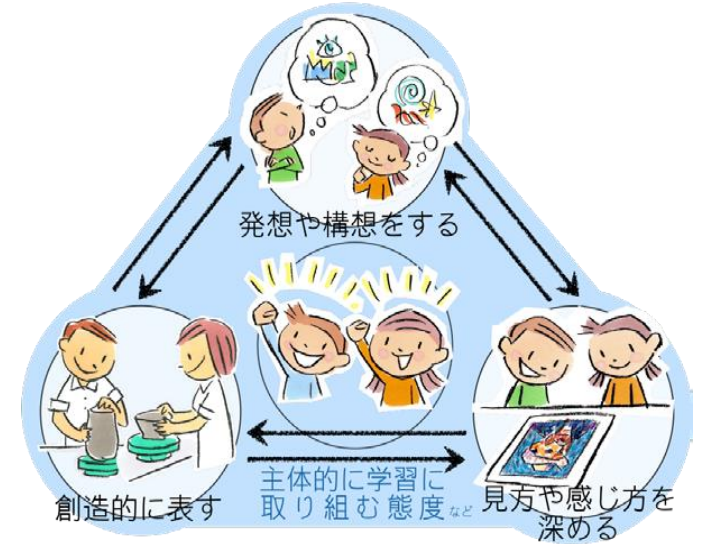
ポイント

何について考えたらいいか、何ができるようになったらいいのか、意識できるような問いを設定する。

美術、工芸科における評価の基本的な考え方



A表現とB鑑賞を相互に関連付けて主体的で深い学びへ導く



芸術

「主体的に学習に取り組む態度」を評価するための工夫

ワークシートの工夫例3

「版で表す」凹版(シルクスクリーン)ふりかえり

この課題では「凹版 シルクスクリーン(カッティング技法)」で「ミニカード」を制作しました。
テーマは「My Favorite」です。
あなたの今回の作品制作について振り返ってください。

- ① 作品制作に興味を持って(または頑張っ、または前向きに)取り組みましたか？
興味を持った(または頑張った、または前向きに取り組めた)のはどの部分ですか？
又、興味を持てなかった(または頑張れなかった)部分があれば、どの部分ですか？
その理由も教えてください。
- ② 難しかったところがありましたか？ どの部分ですか？ どう工夫して解決しましたか？
- ③ あなたがこの課題を通して学んだことや身についたと思うことはどのようなことですか？

ポイント

指導者が、授業観察で見取れていなかったことを
本人の記述により表出させる問いを設定する。



その題材で、自らの学習状況を把握し、自己調整しながら、粘り強く取り組もうとする姿とは？

造形に関する基礎基本を主体的に身に付けようとし、目標に向けて努力する姿とは？

授業観察？

ワークシートの記述？

作品の出来ばえ？

説明などポイントをメモしている、等

積極的に質問・発言しているか？



多様な評価方法から目標に応じて最適を選択！

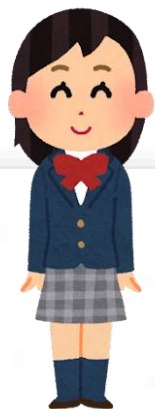
鑑賞レポート？

試行錯誤を繰り返している？

芸術

振り返りでの気づきが活かされた例

ワークシートの工夫例 4



デッサンの学習を終えて

ワークシートの問い：
次に制作するとき、今回学んだことをどのように活かしますか。

ワークシート記述：
実物よりも大きく描くことを意識すると、明るいところと暗いところの差をはっきり描くようにしようと思います。立体感があまり表現できなかったので、線の向き、色の変化、濃さに気をつけます。



自身の振り返りが以降の題材で活かされた例

デッサンでの学びを生かして、明暗や線の向き、濃さを意識した作品を主体的に制作することができた。



振り返りを効果的なものにするためにも、自身の作品と向き合う時間をしっかり確保することが重要。

相互鑑賞で他者の意見から気づきがあったり、他者の作品を鑑賞して発見することも重要。



芸術
美術

生徒の成果物や実践の振り返りから 考えられること

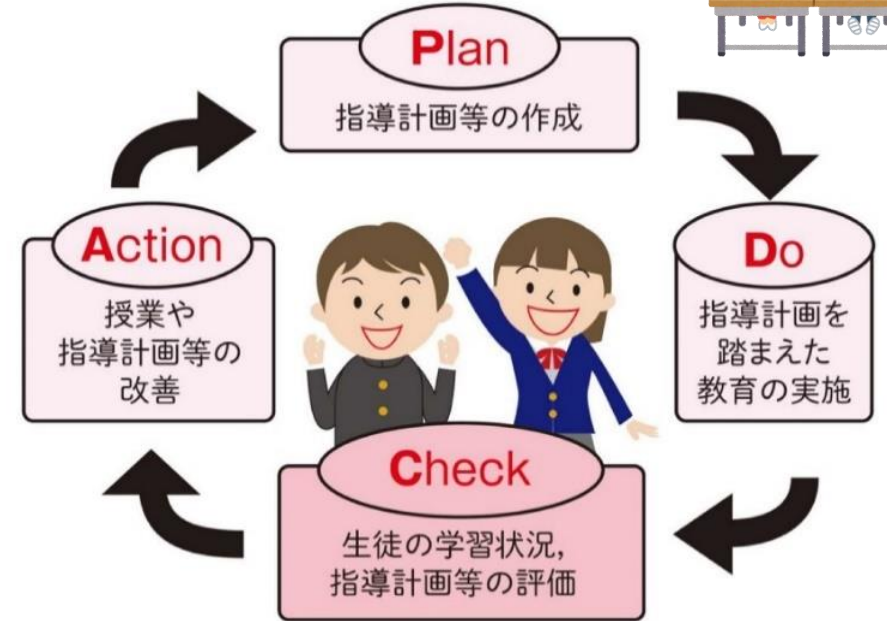
■課題の解決に向けて

- ・ 事前に評価計画を立てることが重要である。特に形成的評価はタイミングをのがしては効果がない。
- ・ 生徒の資質・能力を伸ばすためには、生徒自身が気づき、自身の制作過程を整理する時間、振り返りが有効である。ただし、何について考え、できるようになったらいいのか、など、その題材での学習のポイントが明確になっていないと効果的に働かない。そのため、ワークシートの問いは、題材のねらいに応じて、吟味したものでなければならない。
- ・ 評価について、学期ごとの総括的評価だけだと、それぞれの題材の目標の達成度合いが、どうだったのか、評価の具体がわかりにくい。成果についてはタイムリーに伝えていくことが必要である。

■今後さらに検討すべきこと

- ① 「おおむね満足である状況（B）」に幅があるため、生徒自身が自分がどの位置にあるのかを自覚しにくい。教員間でも共有することが難しい。
- ② 目標を明確にするために、事前に示す判断基準（ABC）について、その内容の達成ばかりにとらわれてしまい、自由に発想し、表現する独創性が発揮できない生徒もいる。評価のための制作におちいる危険性がある。「もっと自由に絵が描きたい」という生徒の声もあった。判断基準を事前に示すことに難しさがある。

指導と評価の一体化



学習評価を、学習指導の
「PDCAサイクル」に位置付け、
授業改善につなげていこう！

「美術の教育」ではなく、
「美術を通じた教育」の視点で
見直してみよう！